

(3) 伝統芸能

●井手浦の尻振り祭（1月8日）



その昔、出雲の国(現在の島根県)で八岐大蛇(ヤマタノオロチ)が退治されたとき、尻尾が平尾台の麓の井手浦まで飛んできて、その年は稀にみる大豊作になったという伝説に因んだ祭りです。

お尻を大きく振るほど豊作になるといわれ、「（尻を）もっと振れ」の掛け声が飛び交う楽しい祭りです。

●貫のお祓い（3月の最終日曜日）



元和5年（1619年）、時の小倉藩主、細川忠興が宇佐八幡宮の放生会を復活させた際、鈴石（すずいわ）八幡宮（後に荘八幡神社に改称）で、武運長久・五穀豊穡を祈念して“大祓い”の大祭を斎行しました。

それが現在「貫のお祓い」として行われています。

●沼楽（5月3日）【県指定無形民俗文化財】



豊作、除疫を祈願する太鼓踊りとして江戸時代から伝承されているものです。

沼楽の踊りは半楽の形式で楽庄屋1、言上1、杖2、笛4、鉦5、うちわ2、太鼓12の27人で構成され、演舞は杖使いの打ち合いから始まり、言上が終わってから12種類の太鼓踊りが行われ、はじめの8演目は輪踊り、後の4演目は横隊となって踊ります。

●曾根の神幸行事〈開作神事〉（5月3日）【市指定無形民俗文化財】



文政2年（1819年）暴風雨により未曾有の被害を受けた曾根新田の鎮守として、綿都美神社を造営し、五穀豊穰・風鎮汐留祈願の大祭を行ったことが始まりとされています。

1台の山が提灯山、幟山、人形飾山へと三様に変化する形式を持つ市内唯一の祭礼です。

●能行の盆踊（8月16日）【市指定無形民俗文化財】



踊り輪の中心に太鼓を据え、音頭取りの口説き歌に合わせ、輪踊りをします。

弓を引く格好の手振りが特徴で、「ユミヒキ踊」とも呼ばれています。

口説歌の「能行口説き」は、天保6年（1835年）2月21日能行村で実際に行ったお千代と儀平の心中事件を素材に作詞され、旧企救郡の代表的な口説き歌となりました。

●合馬神楽（9月下旬）【市指定無形民俗文化財】



合馬天疫神社の秋祭りに奉納される豊前岩戸神楽です。芸態は、横代神楽と同じ京都郡系神楽で舞振りの流麗さを特徴としています。

神楽の奉納は「おこもり」から始まり、米まき、手草、奉幣、御福、花神楽、五行、四つ鬼、岬鬼、網岬鬼、天岩戸開き、折敷、三本剣、田鋤、木登り、鯛釣り、湯立ての16演目で約2時間の舞いになります。